変動の認知及び不確実感が道徳的感情と判断に及ぼす影響

劉　俣杉

本研究は，変動に対する認知および不確実感が逸脱者への道徳的判断に与える影響を検討した。先行研究（Ding & Savani, 2020）では「変動を認知すると，逸脱者への道徳的判断が厳しくなる」と指摘されているが，その再現可能性や一般化可能性には議論の余地がある。そこで，本研究では 3 つの実験を実施した。実験 1 では，気候変動を操作し，参加者（N = 236）に政府の節水要請に従わなかった隣人への道徳的判断を評価させた。その結果，変動の認知は道徳的判断に影響を及ぼさなかった。実験 2 では，日本円の価値変動を操作し，参加者（N = 175）に会社の印刷用紙を勝手に持ち帰る人への道徳的判断を評価させた。また，脅威の知覚が変動に対する認知と道徳的判断との関係を媒介しているかどうかを検討するために，日本円の価値変動によって感じた脅威の程度も評価させた。その結果，実験 1 と同様に，変動の認知は道徳的判断に影響を及ぼさず，脅威の知覚の媒介効果も確認されなかった。実験 1 と2により，先行研究の知見が再現されないことが示された。再現されなかった理由として，変動の認知から道徳的判断までのプロセスが長いことが考えられる。不確実感などの変数が両者の間に介在しており，変動の認知と道徳的判断の関係の検出に困難を与えるのである。そこで，実験 3 では，不確実感と道徳的判断の関係が検討された。参加者（N= 209）には，不確実感を感じた際の身体的および感情的反応を自由記述させた後，ポイ捨てをした人物への道徳的判断を評価させた。その結果，変動の認知と同様に，不確実感も道徳的判断に影響を及ぼさなかった。本研究は 3 つの実験を通して，変動に対する認知と不確実感が逸脱者への道徳的判断に与える影響を検討したが，結果から見ると，Ding & Savani（2020）の結果は再現性に欠けている。変動の認知と道徳的判断との関係は，実際には存在しない可能性が示唆される。今後は理論的構築やメカニズムをより精緻に検討する必要がある。（社会心理学）